

Gary E. Maciel 教授のご逝去のお知らせ

Gary E. Maciel 教授は2014年4月4日にご逝去されました。(享年79歳)

Gary E. Maciel 教授は、1960年にMITで有機化学の学位を取得し、その後、J.S.Waughのもとで博士研究員を経て、カルフォルニア大学デービス校で助手、助教授、教授を1971年まで歴任されました。1971年よりコロラド州立大学で教授を務められ、2011年に退職されておりました。

Maciel 教授はNMRの理論と実験の両面から研究をされてきました。特に触媒、高分子、半導体、超伝導物質など、有機材料から無機材料までの幅広い物質の物性を固体NMRの手法を用いて研究をされ、多大な功績を上げられています。NMR装置や測定技術の発展に関しても大きな貢献をされています。1982年に発表された固体 ^{13}C 2D exchange NMRのパルス系列はその後、PDSD NMRとして発展しています。また、Chemagneticsという固体NMR装置を製造した会社を立ち上げたのはMaciel教授の研究室で学んだ研究者達でした。

Maciel 教授は退職後も定期的に研究室のセミナーに参加して新しいアイデアを出しておられたと聞いています。死去されたときも自転車で研究室に向かう途中であったとのことでした。誠に残念でなりません。先生の多大な業績と貢献をたたえて深く追悼の意を表します。

2014年4月10日
日本核磁気共鳴学会理事会